

# 家保通信

Vol. 37 No. 9 1月号  
東京都家畜保健衛生所

2024

令和5年12月22日

かほクイズ

マレック病のワクチンの接種日  
齢について、誤りはどれか？

- ①18～19日齢の発育鶏卵
- ②初生ひな
- ③30日齢以上

答えは裏面

## 都内の野鳥で高病原性鳥インフルエンザ確認！

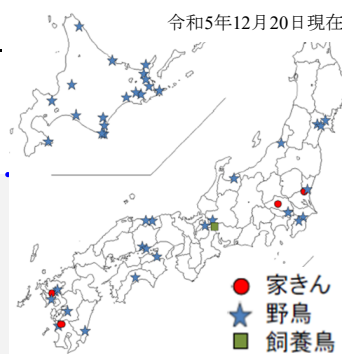
11月28日に東京都千代田区で回収されたノスリ1羽の死体について、**高病原性鳥インフルエンザが確認**されました。詳細は以下URLをご確認ください。

東京都環境局HP:

[https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/nature/animals\\_plants/birds/bird\\_flu\\_report.html](https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/nature/animals_plants/birds/bird_flu_report.html)



野鳥、家きん共に**高病原性鳥インフルエンザウイルス**が**各地**で検出されています。以下の対策を実施し、最大の警戒をお願いします。



- ① 農場主や従業員はもちろん、**工事業者など外部の方の衛生対策**についても農場側がしっかりと管理・指導する。
- ② 適切な消毒薬の選択、濃度調整及び薬液交換を行う。
- ③ **鶏舎の壁及び天井の隙間の有無**について、定期的かつ継続的に点検する。
- ④ 野生動物の誘引及び侵入を防止するため、**死亡家きん、廃棄卵、排せつ物、餌等は、鶏舎や堆肥舎に放置せず、専用容器等に入れて適切に処理する**。特に堆肥場での家きんの死体や軟卵・破卵の廃棄は、カラスや猛禽類等の野生動物を誘引するため、これらの死体等は**放置せず、防鳥ネットの設置等により野生動物の侵入を防止**する。

## 都内の野生イノシシで豚熱陽性が続いています！

8月以降、**都内の野生イノシシで豚熱の感染事例が続いています**。特に、生きているイノシシでの感染が確認されているため、ウイルスの農場への侵入リスクが非常に高い状況が続いています。引き続き、**①飼養衛生管理基準の遵守**  
**②適切なワクチン接種****③異状がみられた場合の早期通報**をお願いします。

都内野生イノシシ豚熱陽性事例（令和5年11月19日以降）

例数	回収場所	発見日	発見時
17	日の出町大久野	令和5年11月19日	捕獲
18	あきる野市内	令和5年11月26日	捕獲
19	あきる野市菅生	令和5年12月4日	捕獲





## 都内でマレック病が発生！

9月及び11月に、都内2か所の飼養場所でマレック病(MD)が発生しました。この2か所の飼養場所には疫学関連(鶏の移動)があり、どちらもMDワクチンは未接種でした。家畜の移動を介して感染症を拡大させるおそれがあるため、MDに関わらず、家畜を導入する際は、導入元での伝染病の発生状況やワクチン接種状況等を確認し、健康な家畜を導入してください。また、導入後は、異常がないことを確認するまでは、隔離観察をしてください。

### マレック病(MD)とは？

#### 【原因】

MDウイルスの感染によって起こる鳥の病気で、届出伝染病に指定されています。

#### 【症状】

ウイルスは鳥の体内のリンパ球に感染し、リンパ腫という腫瘍を形成します。また、体の隅々まで分布する末梢神経にも病変を作り、翼の神経が侵されれば翼麻痺、足の神経が侵されれば脚麻痺を起こします。

#### 【感染経路】

ウイルスは鶏の羽でも増殖するため、大量のウイルスが羽や、フケとともに飛散し、これを鶏が吸入して感染が広がります。

#### 【対策】

ウイルスを「持ちこまない」、「広げない」、「持ち出さない」ため、飼養衛生管理基準の遵守が重要です。また、MDウイルスは野外に広く存在していますので、ワクチン接種済みの鶏を導入し発症を予防することも重要です。




## 家畜所有者の定期的報告の時期になります

家畜の所有者は、飼養目的や頭羽数に関わらず、定期的報告の提出が必要です。昨年分の定期報告書を提出いただいている方には、当所から通知文及び報告様式等を1月下旬頃に発送予定です。令和6年2月1日時点での飼養状況について、提出期限までに当所まで報告をお願いいたします。



クイズの答え：③ マレック病のワクチンには、18～19日齢の発育鶏卵に接種するものと、初生ひなに接種するものがあります。マレック病のウイルスは野外にまん延しているため、孵化場でワクチン接種を実施し、きれいな状態の育雛舎に入雛して、ワクチン株が増殖する前に野外株に暴露させないことが重要です。ワクチンには感染を防ぐ効果はありませんが、野外株の体内での増殖を阻害し発症を予防する効果があります。なお、MDワクチンは凍結生ワクチンのため、保管には液体窒素が必要です。取り扱いが難しいため、ワクチン接種した家きんを導入しましょう。

発行日 令和5年12月22日

編集発行  東京都家畜保健衛生所

<http://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.jp/nourin/shoku/animal/kaho/>

〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町  
大字平井2759

TEL :042-588-7171

携帯：090-6941-4315(緊急用)

